

雨が多い日本では、毎年、大雨による河川氾濫等が発生しており、個人の住宅や資産などに損害を与え、時には人命を奪う水害が起こっています。鹿児島市では、平成5年8・6豪雨災害で、甲突川、稲荷川、新川が氾濫して市内の広い範囲が浸水しました。



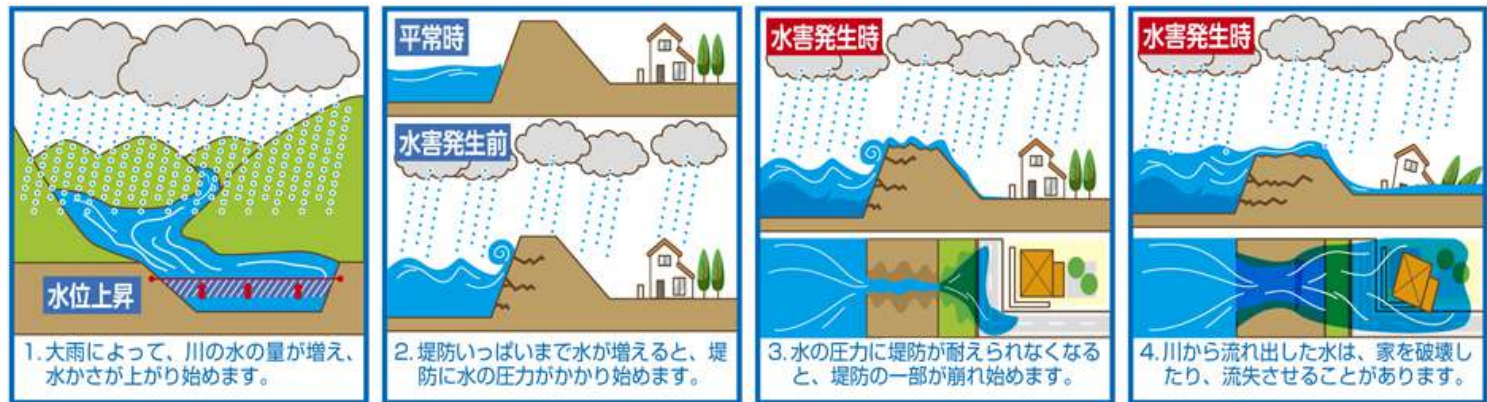
草牟田町(甲突川) 8・6豪雨災害



清水町(稲荷川) 8・6豪雨災害

◇洪水発生仕組み

洪水とは、大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越える(越水)などして起こります。



洪水浸水想定区域とは？

洪水浸水想定区域とは、河川の氾濫により、浸水が想定される区域です。防災マップ(裏面)では、**想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域**と**家屋倒壊等氾濫想定区域**を掲載しております。浸水した場合に想定される浸水の深さ(浸水深)など、自宅の安全性を確認しましょう。



※本市では、稲荷川・甲突川・新川・永田川の4河川が水位周知河川として指定されています。

私の自宅の浸水深は 3.0m~5.0m 未満で、2階までくるから、早めに避難をしないとイケないわね。



想定最大規模の降雨ってなに？



想定最大規模の降雨は、現時点で想定し得る最大規模の降雨を、過去の気象観測データ等から導き出した、概ね1,000年超に1回の大雨のことだよ。



家屋倒壊等氾濫想定区域
家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域

